群馬県内のハスの生息状況

ヤリタナゴ調査会　斉藤裕也

ハスは本来琵琶湖と三方湖(福井県)のみに生息する。コイ科魚類では唯一魚食性を示す特異な種で、現在琵琶湖では減少しており三方湖では確認できなくなっている。環境省のレッドデ-タブック(2015)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)である。群馬県には国内外来種として東毛地区(渡良瀬川、谷田川、多々良沼、城沼、渡良瀬貯水池)(関根 1985 と関根 2009)と西毛の神流湖(斉藤 1984 と関根 1985)のみに生息している。

多々良沼では 2015 年から 2017 年に、主に定置網で調査を行い、11000 尾以上(11408 尾)を採取して、その内４尾のハス未成魚が確認された。採取された個体はいずれも未成魚である。城沼でも２年、同様の調査を実施したがハスは確認できなかった。

図１　多々良沼のハス未成魚

表１　多々良沼の採取個体数

調査年	採取個体数	ハス採取数
2015	3781	0
2016	1719	0
2017	5908	4
計	11408	4

神流湖では流入口で例年６～７月の産卵期に生殖腺が大きい成熟直前の個体が溯上して来ることが知られ(斉藤 1984・斉藤 1994 と斉藤 1999)、その後産卵行動が見られる事から、産卵のための遡上と考えられるが、湖内では稚魚や未成魚が採取されていなかった。本年９月に流入口でオイカワを釣獲中に未成魚を１個体得た。神流湖に生息する個体群で未成魚の確認は初めてである。　なお、県下ではワタカも同様の分布をしている。

図２　河川に遡上した成熟個体
上♀(TL210 ㎜)　下♂(TL275 ㎜)

図３　未成魚(TL171 ㎜)